

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20330115

研究課題名（和文） 二十世紀における「負」の遺産の総合的研究－太平洋戦争と戦後社会－

研究課題名（英文） The Study of “Negative” Heritage in the 20th Century –The Pacific War and Postwar Society

研究代表者

荻野 昌弘 (OGINO MASAHIRO)

関西学院大学・社会学部・教授

研究者番号：90224138

研究成果の概要（和文）：

本研究では、敗戦を契機とした軍隊の解体が生み出した広大な旧軍用地（軍隊が残した負の遺産）が、現代社会において、いかにして活用されているのかを調査しながら、負の遺産が、社会において持つ意味について研究した。その結果、旧軍用地の活用は、日本のみならず、太平洋戦争に関わった他のアジア地域における戦後復興および地域開発に重要な役割を果たしている一方、既存の地域社会と人間関係を激変させたことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

By exploring the question of war heritage, we discovered that the use of former military reservations had played a significant role in the reconstruction and development of postwar society, not only in Japan but in other Asian countries involved in the Pacific War, and provoked various conflicts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009 年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2010 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会学、文化人類学、民俗学、歴史学、哲学、戦争、記憶、負の遺産

1. 研究開始当初の背景

ユネスコの世界遺産事業に見られるように、世界各地で文化遺産に対する関心が高まっている。それに応じて、文化遺産や博物館に関する社会学的研究が国内外で活発に行われつつある。本研究のテーマである「負の遺産」とは、原爆ドームが世界遺産登録された時期から、頻繁に用いられるようになった用語で、戦争や環境汚染、労働災害などがもたらした廃坑、旧植民地時代の建築物のように近代史の否定的側面を示す遺産を意味す

る。しかし、負の遺産に関する研究は未だ緒についたばかりであり、戦争、特に太平洋戦争の負の遺産に焦点を絞った社会学的研究は皆無に等しい。また、太平洋戦争を対象とする本研究は、戦争の社会学的研究の先駆としても位置づけられる。

研究代表者（荻野）は、平成8年度科学研究費補助金基盤研究(C)(1)「制度としての文化財と博物館-欧米、特にフランスとの比較社会学的研究に向けて-」による国際共同研究を出発点として、平成9年-11年度科学研

究費補助金基盤研究(A)(2)「制度としての文化財と博物館-欧米、特にフランスとの比較社会学的研究-」を遂行した。以上の文化財と博物館の比較社会学的研究の過程で、本来であれば忘れてしまいたいような忌まわしい記憶を想起させる負の遺産が積極的に保存される動きが世界各地で活発化している点に現代社会の特質を解くカギがあると認識するようになった。その成果は平成13年度科学研究費公開促進費の助成を受け、荻野編『文化遺産の社会学』新曜社として出版した。また、「負の歴史的遺産の保存-戦争・核・公害の記憶」(片桐新自編『歴史的環境の社会学』第9章、新曜社、2000年)などの論文を発表した。

これを踏まえて、平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究(B)「二十世紀における『負』の遺産の総合的研究-太平洋戦争の社会学-」において、日本とアメリカ、アジア諸国に共通する太平洋戦争の「負」の遺産に焦点を絞って、国際比較研究を推進した。その成果は中間報告書(2007)をはじめ数編の論文等で発表している。その成果から、記憶の問題だけでなく、戦後社会の諸問題の多くが、太平洋戦争とその敗戦がもたらした「負」の遺産に由来するとの認識を得た。

2. 研究の目的

研究期間内に主として行うのは、日本、アメリカ、アジア太平洋諸国における太平洋戦争の「負」の遺産に着目し、その実態を把握することである。太平洋戦争という共通の出来事の記憶がどのように保存され、アジア太平洋諸国の現在にとっていかなる意味を持っているのか。また、国際関係にどのような影響を与えているのかについて、目に見えるモノや場所、それらを核として語り出される人々の脳裏に刻まれた記憶までを「負」の遺産として対象化し、社会学を中心に人類学・民俗学・歴史学・哲学などの多角的な観点から総合的、かつ比較社会論的に検討することを目的とする。

3. 研究の方法

太平洋戦争の「負」の遺産が、太平洋戦争に関係した広範な地域にどのように保存され、それぞれの地域の現在にどのように影響を与えているのかについて、現地調査に基づいて実証的に把握することにある。

日本国内において、旧軍用地はいかに活用されているのか、旧軍用地の開発に関する資料を収集する。また、その開発によって生じる地域の変化を映像として記録する。

また、アメリカ、フランス、中国および韓国の研究者と連携し、「負」の遺産の共同調査を行い、「負」の遺産の国際比較研究を推進した。

4. 研究成果

日本とアメリカ、アジア・太平洋諸国における太平洋戦争の「負」の遺産に焦点を絞って、国際比較研究を推進した。その結果、戦争の記憶に直接かかわる問題のみならず、戦後社会の諸問題の多くが、太平洋戦争とその敗戦がもたらした「負」の遺産に由来するとの認識を得た。そこで、本研究では、旧軍用地のような戦争遺産がいかに保存されたのか/保存されなかったのかについて、地域の変容との関係において捉えながら、戦争の社会への影響について調査を実施した。たとえば、敗戦を契機とした軍隊の解体が生み出した広大な旧軍用地(軍隊が残した負の遺産)の利用は、戦後復興に大きな役割を果たす一方、既存の地域社会と人間関係を激変させた。それは田園風景の中に突如として工業団地が出現するような、いびつな風景を各地に出現させたことに表れている。

本研究では、戦後日本社会における土地利用の変化と、それによって引き起こされる社会問題(とくにいじめ自殺)の関連について、考察した。また、フランス語圏映像社会学シンポジウム(於ブリュッセル自由大学)にて、戦後社会の問題を映像化したアニメーションを上映し、「負」の遺産に関する研究をいかにして映像化するのかという点について報告した。

また、日本、アジア・太平洋、ヨーロッパにおいて、激戦の記憶がいかに残されているのか、本研究において調査したものについて、時系列的にまとめた「太平洋戦争とその遺産に関する年表」を作成し、成果報告書(2011)に掲載した。ここでは、現在、太平洋戦争の戦闘の記録に対応させて、その出来事の記憶が、現在いかに保存されているのか、実際に調査を行ったモニュメントやミュージアムの写真を記載している。

中国雲南省にて、戦時期の激戦地区が戦後どのように利用されてきたのか、雲南社会科学院の研究者たちと情報交換を行った。その結果、当時の激戦地区には、戦争の記録を展示する博物館が開設されており、愛国教育の拠点、観光地として、多くの中国人が訪問していることが明らかとなった。

また、ロンドンで開催された Conference "Cultural Heritage ? in East Asia", では、アメリカ、中国、韓国の研究者と学術交流を行い、負の遺産化という観点から、現代社会における「保存」の意味を考察した。その結果、必ずしも、積極的に保存しようとする営みだけが、保存に結びつくのではなく、むしろ、保存しないことが保存に結びつく場合があることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

①山泰幸, 2010, 「民話に学ぶ環境民俗学—人と自然の物語」『BIO-City』no. 44, pp 82-87, 査読無.

②山泰幸, 2010, 「千年の大クスに学べ—徳島県東みよし町のまちづくりプロジェクト」『BIO-City』No. 45, pp 120-125, 査読無.

③荻野昌弘, 2009, 「他者の社会理論序説」『先端社会研究所紀要』, 第一号, pp 3-12, 査読有.

④荻野昌弘, 2009, 「消費空間と見えない他者—国家=社会構造モデルを越えて」『日仏社会学年報』第 19 号, 日仏社会学会, pp1-14, 査読無.

⑤山泰幸, 2009, 「〈現在〉の奥行きへのまなざし—社会学との協業の経験から」『現代民俗学研究』, 第 1 号, pp19-28, 査読有.

⑥荻野昌弘, 2008, 「高度消費社会における安心と不安—グローバル化時代における日仏比較とは?」『日仏学術交流のルネッサンス報告論文集』日仏会館, pp 65-71, 査読無.

⑦荻野昌弘, 2008, 「“現在” 的文化遺産化—中心的象徴性解体之後」『民族転籍文字研究』第五号 北京師範大学民族転籍文字研究中心 pp 43-49, 査読無.

⑧荻野昌弘, 2008, 「軍隊の痕跡の後に—残された農地」『二十世紀における「負」の遺産の総合的研究—太平洋戦争の社会学—』, 平成 17-19 年度科学研究費補助金[基盤研究(B)]研究成果報告書(研究代表者 荻野昌弘), pp 3-16, 査読無.

[学会発表] (計 10 件)

①Masahiro Ogino, *Visible and Invisible—Logic of Actualization*, 2010 年中国芸術人類学学会学術会議 2010. 11. 5, Beijing Tibet Hotel, China (招待講演).

②Masahiro Ogino, *L'approche sociologique de la violence des enfants par la production d'un film d'animation*, La sociologie par l'image, Colloque de la sociologie visuelle, 2010. 10. 26, AISLF, Belgium.

③Masahiro Ogino, *Cultural Heritage in Asia — an Exemple of Dance of the Yi s*, First Asian Anthropology and Ethnology Forum, 2010. 10. 9, 北京民族大学, China.

④Masahiro Ogino, *A Society that Preserves the Present*, Conference “Cultural Heritage ? in East Asia”, 2010. 3. 10, University of London, UCL, UK(招待講演).

⑤荻野昌弘, 「国際化と社会学の言語—日仏学術交流の経験から—」日本学術会議社会学委員会主催シンポジウム「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」2010. 1. 23, 日本学術会議講堂.

⑥荻野昌弘, 「文化が生まれるとき—2010 年日仏コロクに向けて」日仏社会学会会長講演, 2009. 10. 17, 岡山県立大学.

⑦荻野昌弘, 「消費社会における文化と美意識」The 16th World Congress of The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2009. 7. 30, Yunnan University, China.

⑧荻野昌弘, 「グローバル化時代における安全/安心社会の構築—日仏比較」日仏交流 150 周年記念 日仏関連学会総合シンポジウム, 日仏学術交流のルネッサンス, 2008. 9. 27, 日仏会館.

⑨ Masahiro Ogino, Mayumi Yukimura, *Using Animation film for Social Research : Description of Bullycide*, The 38th World Congress of the International Institute of Sociology, 2008. 6. 28, Central European University, Hungary.

⑩Masahiro Ogino, *L'intérêt des Japonais pour les enquêtes de Plozévet*, Colloque “les grandes enquêtes pluridisciplinaires des années 60-70 Bilans et perspectives”, organisé par le Centre de Recherche Bretonne et Celtique, 2008. 5. 17, France.

[図書] (計 11 件)

①Masahiro Ogino, Mayumi Yukimura, 2011, “Using Animation Film for Social Research : Description of Bullycide”, Vincenzo Mele(ed), *Sociology, Aesthetics and the City*, Pisa University Press, pp. 241—262 査読有.

②荻野昌弘, 2011, 「『戦争が生み出す社会』研究の課題」『戦争が生み出す社会』新曜社(印刷中).

③ Masahiro Oginō, 2010, "Dialogues Plozévet-Japon : une sociologie du présent est-elle possible ?", in sous la direction de Bernard Paillard et als., , *En France rurale Les enquêtes interdisciplinaires depuis les années 1960*, Presses universitaires de Rennes, pp.145-152. 査読有.

④ 荻野昌弘, 2009, 「“現在” 的文化遺産化— 中心的象征性解体之后」 色音他編『地理環境 与民族文化遺産, 孟和訳, 知況産権出版社, pp. 122—128.

⑤ 荻野昌弘, 2009, 「展示への権利—美の展示 と暴力の展示のすき間に」 川口幸也編『展示 の政治学』水声社, pp. 41-59.

⑥ 荻野昌弘, 2009, 「現在を保存する社会」 土生田純之編『文化遺産と現代』同成社, 第一章, pp. 15-26.

⑦ 山泰幸, 2009, 「遺跡化の論理—歴史のリア リティをめぐって」 土生田純之編『文化遺産 と現代』同成社, pp77-107.

⑧ 山泰幸, 2009, 『追憶する社会—神と死霊の 表象史』, 新曜社, pp1-208.

⑨ 山泰幸・川田牧人・古川彰編, 2008, 『環 境民俗学—新しいフィールド学へ』昭和堂 (山担当分: pp1-10, pp211-229).

⑩ 山泰幸, 2008, 「幸福の民俗理論」高坂健次 『幸福の社会理論』放送大学教育振興会, pp. 33-43.

⑪ 山泰幸, 2008, 「〈異人論〉以後の民俗学的 課題」『日本文化の人類学／異文化の民俗学』 法蔵館, pp77-95,

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荻野 昌弘 (OGINO MASAHIRO)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号: 90224138

(2) 研究分担者

古川 彰 (FURUKAWA AKIRA)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号: 90199422

山 泰幸 (YAMA YOSHIYUKI)
関西学院大学・人間福祉学部・准教授
研究者番号: 30388722

(3) 連携研究者

松田 素二 (MATSUDA MOTOJI)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号: 50173852

今井 信雄 (IMAI NOBUO)
関西学院大学・社会学部・准教授
研究者番号: 60379458